

## 京都市立芸術大学学生による桃山デザイン

京都市立芸術大学では、桃山陶を考古学的視点で楽しく学び、そのデザインに着想を得た作品を制作する「考古楽 桃山デザイン」という授業が行われています。漆器、テキスタイル、LINEスタンプ、アニメーション、店舗デザインなど、桃山陶を起点に多方向に広がる発想の数々は、桃山デザインの尽きることのない可能性を感じさせます。デザインと考古学を掛け合わせ、桃山時代と現代をつなぐこのような取り組みは、桃山陶の消費地 京都のみならず、生産地 美濃でも新たな風を生むことができるのではないのでしょうか。

### 沓形茶碗デザインの靴 /



柴田若奈  
2021年



桃山時代の沓形茶碗のデザインを、現代の靴に転用した作品。「沓」は西洋文化が流入する以前の日本の履物のことであることに着想を得ている。靴の素材感や靴底の配色などは、茶碗の質感や色彩に由来する。

### 桃山おざぶとん /



山口汐璃乃  
2021年 素材：綿/擦糸/反応性染料



桃山陶のための「お座布団」に見立てた小帛紗。実物の桃山陶の器形や図文をモチーフに、一点一点の器のための詠えとして制作した。簡略化して表現された器形や図文によって、桃山陶の豊かなデザイン性が際立っている。

## SPECIAL EVENT

関連イベント

《担当学芸員による展示解説》 1月20日(土)・2月24日(土) いずれも14:00～ 参加費無料 要入館料

### 1 ギャラリートーク『京都市立芸大生が表現した桃山デザイン』

美濃桃山陶の消費地 京都で行われた、桃山デザインを現代に活用した取り組みを紹介。京都三条通の「せと物や町」から出土した桃山陶器から着想を得て、京都市立芸術大学学生が制作したアート作品やデザインについて、制作者が解説する。  
日時：3月3日(日) 14:00～15:30頃 会場：土岐市美濃陶磁歴史館 第1展示室  
講師：畑中英二(京都市立芸術大学美術学部教授)、出品作家(大西由羽、北浦雄大、倉澤佑佳、山口汐璃乃)

### 2 トークセッション『重要文化財2,000点、どう料理する?!』

これまでの歴史館のあゆみを振り返りつつ、重要文化財の価値や新博物館での活用に向けた展望を話し合う。美濃陶磁歴史館の初代学芸員と現学芸員によるトークセッション。  
日時：3月17日(日) 13:30～16:00 会場：土岐市文化プラザ ルナホール ※事前申し込み不要  
出演：コーディネーター 伊藤嘉章(愛知県陶磁美術館総長) + 美濃陶磁歴史館学芸員

### 3 さよなら歴史館 無料開館デー

日時：3月20日(水・祝)～3月31日(日)  
《無料開館中のイベント》 日時：3月20日(水・祝)・23日(土)・24日(日)・30日(土)・31日(日)  
●歴史館・旧文化会館お別れバックヤードツアー ①10:30～②14:00～  
●歴史館のあゆみ展 [旧文化会館ロビー]  
●各種体験コーナーもご用意しています [旧文化会館ロビー・歴史館ロビー]

★最終日 3月31日(日) 来館者記念品贈呈

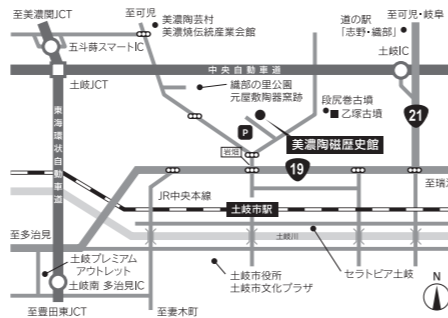
#### 《常設コーナー》

- 新博物館紹介コーナー
- プラ板体験 いつでも遊べる!
- 思い出写真館 歴史館・文化会館での思い出を教えてください

## 土岐市美濃陶磁歴史館 TOKI CITY HISTORICAL MUSEUM OF MINO CERAMICS

〒509-5142 岐阜県土岐市泉町久尻1263 TEL.0572-55-1245 FAX.0572-55-1246  
土岐市文化振興事業団ホームページ <http://www.toki-bunka.or.jp/history>

交通のご案内 [鉄道]名古屋駅からJR中央本線「土岐駅」下車 徒歩約10分  
[自動車]●中央自動車道「土岐IC」から約7分 ●東海環状自動車道「五斗踏スマートIC」から約5分 ●東海環状自動車道「土岐南多治見IC」から約10分



# 挑戦 重要文化財

開館44年収集の軌跡Ⅲ

休館前、最後の展覧会  
新しい博物館の開館に向けて

# 2,000点並べてみる

2024 1.7 SUN → 3.31 SUN

【会場】土岐市美濃陶磁歴史館  
【開館時間】午前10時～午後4時30分(入館は午後4時まで)  
【休館日】月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日(ただし2/12・24、3/21は開館)  
【入館料】[一般]200円(150円) [大学生]100円(70円) [高校生以下]無料  
\*( )内は20名以上の団体料金 \*3/20～3/31は入館無料  
\*障がい者手帳・医療受給者証(指定難病・小児慢性特定疾病)をお持ちの方と介助者1名無料  
企画：公益財団法人 土岐市文化振興事業団  
写真：《元屋敷陶器窯跡出土品》重要文化財含む

## 土岐市美濃陶磁歴史館 TOKI CITY HISTORICAL MUSEUM OF MINO CERAMICS

### 美濃桃山陶の生産現場、まるごと再考察

開館44年を迎えた当館では新たな博物館への建て替えを前に、令和5年度は年間を通じ、当館の資料収集の軌跡を振り返る展覧会をシリーズで開催しています。本展は、休館を目前に控えた当館最後の展覧会として、土岐市が所蔵する重要文化財「元屋敷陶器窯跡出土品」約2,000点の展示公開を試みます。令和10年に開館予定の新しい博物館では、この重要文化財の一群を全て公開する展示室を設けて、その圧倒的なボリュームを来館者に体感してもらいたいと計画しています。本展は、新博物館の収蔵展示に向けた試みの一つでもあり、空間が許す限りたくさんの陶片を展示します。歴史と芸術の断片が垣間見えるたくさんのカケラから、お気に入りを見つけてみてください。

# 2,000点を超える**重要文化財**の正体?!

かつての産業廃棄物は  
今ではお宝に!

およそ400年前の安土桃山時代から江戸時代初頭、茶の湯の流行を受けて当地で生産された「美濃桃山陶」。黄瀬戸・瀬戸黒・志野・織部で構成される「美濃桃山陶」は、当時のトレンド商品として、消費地の京都や堺の茶人たちの間でもてはやされました。土岐市が所有する2,000点もの重要文化財は、この美濃桃山陶を中心とした一群で、すべて失敗品として廃棄された「ゴミ」だったものです。かつては無価値だったこれらが、400年を経た現在では、美濃窯における茶陶生産のあり方を示す良好な資料として学術的価値が認められ、大切に保存されています。

茶陶生産が本格化する前の生産品も

色・形・文様すべてにおいて  
革新的な美濃桃山陶も



**ぜんぶ  
重要文化財**



こんな小さな陶片も

釉薬が溶けきっていない製品も

窯道具も



重要文化財「元屋敷陶器窯跡出土品」：平成25年(2013)指定

当館から  
徒歩5分!  
遺跡にも行ってみよう!

## 重要文化財の出土地 国史跡「元屋敷陶器窯跡」



織部の里公園内にある国史跡「元屋敷陶器窯跡」：昭和42年(1967)指定

元屋敷陶器窯跡は、3つの大窯と1つの連房式登窯からなります。元屋敷東1～3号窯の大窯では播鉢・小皿・天目茶碗といった当時の美濃では一般的な生産品から、徐々に茶陶の生産へと転換していきました。さらに、美濃最古の連房式登窯「元屋敷窯」では織部を量産し、茶陶生産の一大拠点となりました。



美濃最古の連房式登窯「元屋敷窯」

# (( 茶陶「美濃桃山陶」の革新性と楽しさ ))

文様



志野向付

へタウマ?!  
松の山林、  
だと思っ...



志野織部大鉢

## 新しい釉薬「長石釉」がもたらしたもの

それまで一般的に用いられてきた釉薬 灰釉と並行して、新しい釉薬「長石釉」が発見されます。これにより、日本初の白いやきもの「志野」が誕生しました。さらに、灰釉では実現できなかった下絵付けの技術が発展し、釉薬の下に自由な線で描かれた多彩な文様が展開されていきます。

なんだか  
よくわからない文様



鳴海織部茶碗



黒織部茶碗

下絵付け後に長石釉を施す技術は、織部にも受け継がれていきます。具象、抽象、古典、斬新、当時の世相が受容した様々な要素を、すべて器にとりこんだような文様表現は、現代の目にも楽しく映ります。

形

## 茶碗の形

美濃桃山陶が生産された時代は、従来の茶の湯の価値観「唐物(中国陶磁)第一主義」から解放された時代でした。特に、茶碗の造形の進化は著しく、天目茶碗から半筒茶碗へ、さらに、大胆な歪みを加えた沓形茶碗へと、より自由なものへと変化しました。



瀬戸黒茶碗

歪んでいるのは  
わざとです



黒織部茶碗

## 茶懐石用の食器の形

ロクロで引いた単なる正円形ではなく、手で歪めたり型を用いたりして、これまでになかった形の器を大量に生み出しました。

○、▲、□  
茶人を唸らせる  
うつわ七変化!



志野織部向付



青織部向付



鳴海織部向付

